

平成30年度  
(第73回)文化庁  
芸術祭参加公演

フランス現代劇

私は太田、広島の川

朝は、夜の闇に包まれた

“Moi, Ota, rivière d’Hiroshima  
[Le matin où la nuit est tombée]2018年秋  
再々演決定作 ジャン・ポール アレーグル  
Jean-Paul Alègre  
翻訳・演出 岡田正子

アレーグルの限りない優しさ、烈しい怒り、細緻。

我々に、そして世界の人々に呼びかける。

"この焰を必ず消そう!"

太田川は大自然の象徴、人々の心のよりどころ。

姉と弟は広島と東京に住み、質素でシンプルな市民の営みがある。

USAはマンハッタン計画に突入。

歴史にも類を見ない市民を標的にした人体実験の日が迫りくる。

ついにエノラ・ゲイ機が飛び立つ。

史実に基づくUSAの真実をアレーグルは明白に描いている。

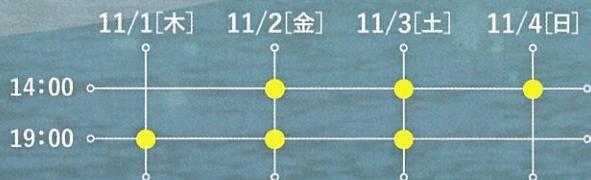
太田川の相生橋が標的に。太田川は爆死するが、

再び生き返り力を振り絞って呼びかける。

我々に。そして世界の人々に。

## 公演期間

2018年11月1日(木)→4日(日)



開場  
開演の30分前  
受付開始  
開演の45分前

## 劇場

シアターグリーン ビッグツリーシアター  
BIG TREE THEATER

東京都豊島区南池袋 2-20-4/Tel.03-3983-0644



三輪えり花



鷺巣照織



伊沢 弘



坂本岳大



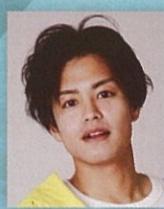
高橋信康



鍵本景子



榎 太誠



福地 涼



楚南勇真



館林敦士



瀬藤洋子



井上多美子

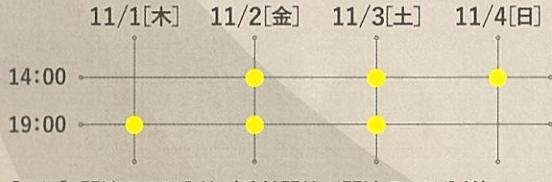
# 私は太田、広島の川 朝は、夜の闇に包まれた “Moi,Ota,rivière d’Hiroshima” [Le matin où la nuit est tombée]

作 ジャン・ポール アレーグル  
Jean-Paul Alègre

翻訳・演出 岡田正子

アレーグルはこれまでにも世界中で起きている  
社会的ひずみを描いてきた。いわゆる社会劇的にはせず、  
ヒューマンで詩情のある作品に書き上げている。

2018年11月1日(木)→4日(日)



ジャン・ポール アレーグル（作家）

1951年生まれ。現代劇作家の中で最も注目されている一人である。作品は、英語、ドイツ語、スペイン語など20ヵ国語に訳され、35ヵ国にも及ぶ国々で上演されている。また、フランスで最も上演回数の多い作家の一人である。2004年『アニエス・ベランドヌ』でアカデミーフランセーズ(エミール・オージエ賞)受賞。『行き交い』では、2003年リヨン市フェスティバル劇作家賞受賞。2007年にはフランス政府より文化勲章(シュバリエ)が贈られた。2011年1月までフランス劇作家協会会長を務めたのち、SACD(劇作家並びに劇作曲家協会)の演劇部門ディレクターに選出される。『アタル デュ フィル アリアンヌ』を1970年に設立。以後、現代に至るまで精力的に数多くの優れた作品を生み出し、訳・脚色も手掛けている。妻のアニーク・キュニーは元女優で、アレーグルによると大事な助言者であるとのこと。

2012年4月24日、広島県の平和記念館を訪れ、広島知事・湯崎氏と感動的会見があった。「日本文化協会ボーラーザン」の記念祝賀会が広島美術館で開かれており、アレーグルも主催者の一人として参加していたため、そういう一連の流れを経て、この戯曲は生まれた。

## STAFF

美術：皿田圭作 音楽：北爪道夫 音響：富田健治  
照明：朝日一真 衣装：井上よしみ 舞台監督：川前英典  
演出助手：坂本岳大・高橋信康  
舞台写真：中川忠満  
制作協力：貝山幸子・深尾香子・東山凜子・湊恵美子・増田若菜  
チラシ制作：株式会社 CIA・株式会社 MUSEE キャトルヴァンアン  
著作権代理：株式会社 フランス著作権事務所

## STORY

この劇は32景から成り、長い間すべてを見つめてきた太田川が芯となって進められていく。広島では穏やかで安らかな日々が流れている。一方アメリカではピール・キュリーの呼びかけも空しく、〈マンハッタン計画〉が科学者や推進派らの手によって綿密にスピーディに進められている。そして、ついにエノラ・ゲイ機は飛び立つ。1945年8月、広島はいつもと同じ眩しい朝、突如一万メートルの高さから原爆が投下された。太田川は被害者や死者のことを伝え、我々に訴え続ける。人間の尊厳を！平和の尊さを！大自然の美しさを！皆で守って！と。

## 劇場

### シアターグリーン ビッグツリーシアター

BIG TREE THEATER

東京都豊島区南池袋2-20-4

Tel.03-3983-0644

- 「池袋駅」 JR 池袋駅南改札より  
地下通路（西武デパート側）39番  
出口 徒歩約2分
- 「池袋駅」 東口より地上路で  
徒歩約6分
- 地下鉄・有楽町線「東池袋駅」  
徒歩約5分
- 都電・荒川線「雑司ヶ谷駅」  
徒歩約7分



## チケット（日時指定・全席自由）

- 一般：前売3,800円／当日4,300円／学生2,500円
- 豊島区民：前売3,500円／当日4,000円／学生2,200円
- 障がい者手帳等お持ちの方：各券種500円引

(公演当日学生証提示)

## チケットご予約・ご購入

### ◆インターネット（パソコン・携帯）

[https://www.quartet-online.net/ticket/moi\\_ota](https://www.quartet-online.net/ticket/moi_ota)

### ◆電話予約 080-7757-6770（火曜定休）



岡田正子（翻訳・演出家）

1929年東京生まれ。小林正・鈴木力衛にフランス語を学ぶ。文化学院卒。1952年に渡仏、パリで日本人として初めてペラ・レーヌ女史に師事。ペラ・レーヌ・システム（演技の基礎訓練）を教えることを許される。1964年帰国後、現在に至るまでその普及に努める。1969年から83年までニコラ・バタイユの日本での演劇活動を訳者、演出助手の立場で支え、24作品に参加。『テリエ館』は1975年度の、『ポンソワール・オッフェンバック』は1976年度の芸術祭優秀賞を参加者全員が受賞している。1983年より、日本に知られていないフランスの優れた

作品を翻訳・演出し、初演を続ける。アレーグルとは『急流の男』『人生の始まりは劇場から』（02年初演）で出会い。その後、数々のアレーグル作品の日仏同時初演、日本初演の翻訳・演出を手掛ける。2011年4月には『天国への二枚の切符』の世界初演を果たし、翌2012年再演、好評を博す。1996年フランス政府より芸術文化勲章（シュバリエ）を贈られる。また2011年、長年に渡るフランスの作家紹介・擁護に対して、フランスのSACD（劇作家並びに劇作曲家協会）から最高の栄誉である「ポーマルシェ賞」（メダル）を、日本人として初めて贈られる。

## お問い合わせ

### ◆Eメール

fec.msk@gmail.com

### ◆フランス演劇クレアシオン ホームページ

<http://fec-msk.sakura.ne.jp/>

### ◆電話

080-7757-6770（火曜定休）



後援：広島市 豊島区 協賛：鹿島建設株式会社

協力：Acture 劇団ひまわり

制作・主催：フランス演劇クレアシオン